

学生受講結果アンケートまとめ

2022 年度

名古屋学芸大学 F D 推進委員会

はじめに

名古屋学芸大学では2007年度より教育の質を向上させることを目的として学生による「授業評価アンケート」を実施しています。これはFD（ファカルティ・ディベロップメント）活動の一環であり、教員はこのアンケートを通じて学生の授業の受け止め方（意識）を把握し、授業改善に役立てています。

2014年度からは「学生受講結果アンケート」へ様式を変更、また2018年度からは従来のマークシート用紙利用からWEB利用へ回答方式を変更して実施してきました。さらに2020年度からは、新型コロナウイルス感染予防のため、従来の対面型に加えリアルタイム型、オンデマンド型、対面とのハイブリッド型等の様々な形による遠隔授業も導入されてきました。そこで遠隔授業に関する設問を追加し、次の実施要項のとおり実施しています。

なお、集計結果は各授業担当者に返却し、それぞれが授業改善に役立てるとともに、大学全体の集計結果をこの大学ウェブサイト公表させていただきます。

実施要項

2022年6月27日

名古屋学芸大学授業担当者 各位

名古屋学芸大学FD推進委員会
委員長 堀尾 正典

2022年度前期「学生受講結果アンケート」の実施について

平素より本学の教育活動にご協力賜りお礼申し上げます。

さて今年度もWebを用いて全科目で「学生受講結果アンケート」を行います。本学では、授業全体の振り返りにより、学生の達成状況への自己分析、今後の学びについての意欲を促すような、学びの場として実施しています。そのため、**全員が行うよう、授業内で学生が入力する時間を設けてその場で回答するようご指導ください。**詳細は下記を確認の上、実施をお願いいたします。

なお、このアンケートは学生への授業・教育改善を目的とし、大学が義務づけられているFD（ファカルティ・ディベロップメント）活動の一環として、また第三者評価の根拠資料として重要な意味を持ちます。こうした事情をご理解・ご協力をお願いいたします。

記

1. 実施日程

2022年7月4日（月）～2022年8月8日（月）（授業第13週～成績提出締切日）

上記期間内の授業で、学生に各自ポータルサイトから回答入力させてください。

2. アンケート対象とする授業

原則として、全ての授業（およびその授業担当の専任教員及び非常勤講師）を対象に実施します。

但し、以下の授業は対象から除きます。

- ① 一部の集中講義等、上記の期間中に開講しない授業
- ② 今学期に成績評価しない（次学期以降に開講期をまたぐ）授業

なお、アンケートは授業番号（例：1A01）単位で回収、集計します。そのため、同一授業番号の授業を複数の教員で担当する場合（オムニバス、二人以上の教員が同時に授業に入り複数で担当、クラスやグループ分けして各教員が個別で担当）は、お手数ですが、代表教員（採点担当者）にて、アンケートを実施する教員・授業回を調整の上、各教員へご指示ください。

3. アンケートの狙いと活用方法

（１）このアンケートの狙い

よい授業とは何でしょうか？よい学びには、学生がその授業目的を正しく理解し、受講後その内容を理解・修得できた結果として、必ずある種の達成感が生まれるはず（正しい目的に対する達成感です）。さらに、その得た達成感は心理的報酬となり、もっと学びを深めたいと言った次の学修行動への動機付けにつながっていくでしょう。つまり良い学修とは、学生の学力だけでなく今後の学びへの意欲を高められるものであるのです。我々は、この学修意欲の喚起（学生をその気にさせること）を授業目的の大きな一つと考えるべきではないでしょうか。

したがって、学生受講結果アンケートでは、学生が、学びの結果何が良く理解でき、どこが理解できなかったのか、今後何を深めていきたいか、などの授業の振り返りを行い、それを通じて全体の達成感や今後への学修意欲を回答することになります。結果から学生意識の変化を把握して下さい。

（２）アンケート項目の意味

授業目的そのものの適切さはカリキュラムマップ作成時やシラバスチェックなどで、学科全体で検討・調整されるべき問題です。学修成績が達成されたかどうかは、試験などの評価物や授業内での学生応答（質問やミニットペーパーなど）を通じて教員が図るべきものになります。このため、受講後に問う必要がある学生の学修意識調査の項目としては、

- i 学生が授業の目的を理解・納得していたか？
- ii 受講後この目的を達成できたと実感できているか？
- iii 今後より深く学びたいと考えているか？

の3点で、これらを中心に「1.学習目的の理解と達成状況について」の設問が作られています。

（３）結果活用方法

アンケートでは、悪かった部分だけでなく、良かった部分も自由記述で書かせる欄があります。教員はこれらから自分の授業の強みを把握し、長所をより伸ばせるような授業改善につなげて下さい。

もし回答結果が予測したようなもので無かった場合、「2.授業の運営について」の設問から原因を推測できるようになっています。ただ、設問項目だけでは原因を推定することが困難な場合も考えられます。その場合は教員独自設問で質問を追加するなどして各自補ってください。

今回のアンケート結果が良くなかったとしても、それが直ちに問題になることはありません。新しい試みで授業を行った場合などは結果が芳しくない場合の方が多いはず。結果は、例えば3年程度の経年変化を見て判断してください。3年たっても状況が芳しくないまま

全く改善出来ないような場合は、学科の長やFD推進委員に相談するなどFD活動に結びつけてください。

学生はアンケートを通じ、「ここの部分の学びは良かった」あるいは「私は、受講した結果この部分がまだよく理解できていない」と言っています。これに対して教員が工夫した結果は、翌年の学生肯定評価率（上記2.の各設問で、そう思うと答えた学生の割合）の向上という形で示されてきます。結果を積極的に活用し、今後の授業改善に向けてモチベーションを高めていただければ幸いです。

（４）遠隔授業に関して

2020年度から遠隔授業についての設問を設けています。ここでは「今回の授業の成否について」、「今後の授業作りのため遠隔のメリット・デメリットについて」の2点について、判断方法の例を示します。

①今回の授業についての成否

質問の内容	受講結果アンケートによる判断
リモートによる学習効果は（従来の対面授業と比較してアップ？ダウン？）	アンケートの設問項目1から求められる肯定評価率を例年と比較して推定してください。
遠隔学修による内容（質や量）の適切性について	内容については、設問⑦授業教材（教科書、題材、テーマなど）、設問⑧評価を用いてある程度推定できます。 量については、設問⑨の文言「開始と終了時間」の適切性を、この授業の「学習時間」の適切性に変更しています。
学生の意識（学びやすかったかどうか、積極的に取り組めたか？）について	設問⑥「積極的に参加できる学習環境であったと思う」、「設問③授業時間外学修の実施」を例年と比較して推定してください。

②今後の新しい授業作りのため遠隔授業のメリット、デメリットの明確化

設問項目3自由記述欄（この授業の良かった部分、改善部分）とある程度重なりますが、特に授業内容そのものではなく遠隔学修の手法としてのメリット・デメリットの判断には、「設問項目4. 遠隔学修についての設問」を活用ください。

4. 実施方法について

（１）効果的な振り返りの実施

授業内で時間を設け、学生が各自の学修の振り返りを行い、その場でポータルサイト(Web)を利用し回答を入力するようご指示ください。なお、ここで言う振り返りとは、授業の単なるまとめだけではなく、

- ・知識や考え方など、その授業内での学修ポイントを振り返りさせて、思い出しから定着を図る。
 - ・自分自身の学修で、何がだめでどこが良かったかなどを具体的に整理させる。
 - ・それらから、さらに学びを深めるために自分は何ができるのか、すべきかを考えさせる。
- など、次の学びに通ずるような自己改善に繋がるものを想定しています。

（２）手順と説明例

学生への説明等のおおよその手順として、4ページに、《Webによる学生受講結果アンケート手順と説明例》を示します。適宜活用ください。説明及び回答（入力）時間は全部で20～

30 分程度を想定しています。

なお、学生へは事前に、回答方法等を記載した案内「学生受講結果アンケート提出について」をポータルサイトへ掲示し周知しています。（添付資料 No.1（学生への案内）参照）

また、教員独自の設問を任意に設定することができます。その場合は、板書、Moodle、ポータル、メール等により、各自で学生に周知してください。（添付資料 No.2（設問）設問⑮～⑰参照）

（３）その他

- ・アンケート様式は、授業方法（講義／演習／実験／実習／講義・演習／等）にかかわらず同一です。
- ・遠隔授業についての設問を設けています。（添付資料 No.2（設問）（設問⑬～⑭参照）

5. アンケート結果の集計と取り扱いについて

アンケートの集計は、外部機関（業者）に委託し次の２通り行います。

（１）各教員の授業ごとの集計（集計結果表、自由記述結果表）

10月中旬にメールボックス等において、各授業担当教員（複数教員で担当の授業は代表教員）へ返却予定です。教育実践記録集（ティーチング・ポートフォリオ）として、シラバス、「教員振り返り」等とともにお手元にファイル、保管いただき、授業改善の資料としてご活用ください。

（２）授業方法全体および各授業方法別での、大学、学部、学科、教養、教職単位の集計

（１）とともにFD推進委員会の管理下に置き、調査結果の把握及び分析等、大学としての組織的な授業改善へ活用します（教務課にて保管）。あわせて学科長等へ提供し、各教員の現状・課題の把握、助言等に具体的に活用します。

6. アンケート集計後のフィードバックについて

集計結果を返却後、各授業担当者にポータルサイトから「授業運営の教員振り返り」にて授業改善計画を提出いただき、それを学生にフィードバックいたします。提出方法等詳細は、集計結果返却時にあらためてご案内いたします（10月中旬を予定）。

また、大学全体の結果をFD推進委員会にてまとめ、大学ウェブサイト等へ公表します。

以上

＜この件に関するお問い合わせ先＞

教務課（FD推進委員会事務局）（内線 2 2 2 5）

外線 0561-75-2795、Eメール：ed-nuas_gr@nuas.ac.jp

《学生受講結果アンケート手順と説明例》

以下、説明例です。***の部分は、実施時に各授業に応じて変更してください。
また、遠隔授業（特にオンデマンド型）の場合は、適宜加工の上ご活用ください。

①アンケートの意味の伝達

これから学生受講結果アンケートを行います。このアンケートは、皆さんがこの科目を受講して何を学んだか、何を学べなかったのか、これからどこをより深めていきたいか、など各自が今後よりよい学びにつなげるために振り返りを行うことが大きな目的になります。

当然、誰がどのように回答したかを担当が知ることはありませんし内容によって成績が変化することはありません。皆さんの今後のよりよい学修と授業改善の為にだけに利用されるものです。（可能であれば、実際に皆さんの意見を基に**を改善しました、等具体例を挙げて説明する。）

②この授業の狙い（学科ディプロマポリシーと関連して）

まず、この授業の狙いは何であったかを振り返ります。この授業は、学科全体の学位授与方針（ディプロマポリシー）の中の***（例 知識理解）の育成が目的でした。そのために、はじめに***を学び、***について考えました。（など授業内容を概説する）。皆さん、どこがよく学べて、どこがあまり学べなかったですか？興味をもち、より深く学びたいと思える部分はありますか？各自考えてみてください。

③スマートフォン（タブレット、パソコン）等の準備

では、自分のスマートフォン（タブレット、パソコン）を出してください。アンケートは各自のポータルサイトから入力しますので、準備ができた人から自分のポータルサイトを開いてログインしてください。

（参考）

・PC(<http://portal.nuas.ac.jp>)

・スマホ、タブレットなど (<http://portal.nuas.ac.jp/s>) QRコード



④学生入力

ポータル画面メニューにある「アンケート回答」→「学生受講結果アンケート」→「授業評価一覧」と進み、この授業***（科目名）を選択したら設問を良く読んで回答を初めてください。自由記述欄もあります。ここもできるだけ書き込んでください。なお操作方法は、ポータル掲示にある「学生受講結果アンケート提出について」にも記載されています。

ネットにつながりにくく入力できない人は、少し間を置いて再入力してみてください。

⑤入力完了後の指示

入力できた学生は***（終了、解散など）してください。

以上

アンケート設問

(2022年度前期) 学生受講結果アンケート

このアンケートはみなさんの学びの振り返りと授業を充実させるためのものです。結果は教育・授業改善のみを目的に使用し、成績には一切関係しませんので、率直にお答えください。
なお、回答の際は、各授業の担当教員からの指示に従ってご回答下さい。

授業を受けた現在、あなたの考えに最も近いと思うものを選択してください。

1. 学習目的の理解と達成状況について

①私は、この授業の学習目的（シラバスに記載された到達目標など）について、よく理解・納得している。 (必須)

- ☐ 5:大変そう思う ☐ 4:わりとそう思う ☐ 3:どちらかといえばそう思う
☐ 2:どちらかといえばそう思わない ☐ 1:あまりそう思わない ☐ 0:全くそう思わない

②私は、この授業の内容についてよく理解できた/演習によく取り組むことができた (必須)

- ☐ 5:大変そう思う ☐ 4:わりとそう思う ☐ 3:どちらかといえばそう思う
☐ 2:どちらかといえばそう思わない ☐ 1:あまりそう思わない ☐ 0:全くそう思わない

・特によく理解（取り組み）できた部分について、入力してください。（全角100文字以内）

・特に理解（取り組み）できなかった部分について、入力してください。（全角100文字以内）

③私は授業時間外で、この授業のために学習（予習・復習・課題作成など）を十分行った (必須)

- ☐ 5:大変そう思う ☐ 4:わりとそう思う ☐ 3:どちらかといえばそう思う
☐ 2:どちらかといえばそう思わない ☐ 1:あまりそう思わない ☐ 0:全くそう思わない

④（今の考えとして）私は①の学習目的は達成できたと感じている (必須)

- ☐ 5:大変そう思う ☐ 4:わりとそう思う ☐ 3:どちらかといえばそう思う
☐ 2:どちらかといえばそう思わない ☐ 1:あまりそう思わない ☐ 0:全くそう思わない

⑤私はこの授業での勉強（課題）を今後さらに深めたいと思っている (必須)

- ☐ 5:大変そう思う ☐ 4:わりとそう思う ☐ 3:どちらかといえばそう思う
☐ 2:どちらかといえばそう思わない ☐ 1:あまりそう思わない ☐ 0:全くそう思わない

2. 授業の運営について

⑥自分にとって、授業に積極的に参加できる学習環境であったと思う (必須)

- ☐ 5:大変そう思う ☐ 4:わりとそう思う ☐ 3:どちらかといえばそう思う
☐ 2:どちらかといえばそう思わない ☐ 1:あまりそう思わない ☐ 0:全くそう思わない

⑦授業で使われた教材（教科書、題材、テーマなど）は自分にとって適切なものであったと思う (必須)

- ☐ 5:大変そう思う ☐ 4:わりとそう思う ☐ 3:どちらかといえばそう思う
☐ 2:どちらかといえばそう思わない ☐ 1:あまりそう思わない ☐ 0:全くそう思わない

⑧成績評価物（テスト、課題、レポートなど）は自分にとって適切なものであったと思う (必須)

- ☐ 5:大変そう思う ☐ 4:わりとそう思う ☐ 3:どちらかといえばそう思う
☐ 2:どちらかといえばそう思わない ☐ 1:あまりそう思わない ☐ 0:全くそう思わない

⑨この授業の学習時間は適切であったと思う (必須)

- ☐ 5:大変そう思う ☐ 4:わりとそう思う ☐ 3:どちらかといえばそう思う
☐ 2:どちらかといえばそう思わない ☐ 1:あまりそう思わない ☐ 0:全くそう思わない

3. 自由記述

最後にこの授業についてあなたの考えを記述してください。

⑩この授業で特に良いと思った部分（全角100文字以内）

⑪この授業で改善した方が良かった部分（全角100文字以内）
（皆さんの意見で次の学期からの授業がより良いものになります。）

⑫その他自分が気づいた部分（全角100文字以内）

例）学びから自分が気づいたこと、特に理解（取り組み）できなかった部分への対策、この学びの今後への活用など、なんでも自由に記述してください。

4. 遠隔学修についての設問

今学期の授業で遠隔学修が含まれていた人はお答えください。

⑬今学期の遠隔学修部分で「良かった」と思えた事はなんですか？（全角100文字以内）

⑭今学期の遠隔学修部分で「改善した方が望ましい」と思える事はなんですか？（全角100文字以内）

5. 担当教員独自設問

※授業担当者からの指示があった場合、回答してください。

⑮

- ☐ 5 : 大変そう思う ☐ 4 : わりとそう思う ☐ 3 : どちらかといえばそう思う
☐ 2 : どちらかといえばそう思わない ☐ 1 : あまりそう思わない ☐ 0 : 全くそう思わない

⑯

- ☐ 5 : 大変そう思う ☐ 4 : わりとそう思う ☐ 3 : どちらかといえばそう思う
☐ 2 : どちらかといえばそう思わない ☐ 1 : あまりそう思わない ☐ 0 : 全くそう思わない

⑰

- ☐ 5 : 大変そう思う ☐ 4 : わりとそう思う ☐ 3 : どちらかといえばそう思う
☐ 2 : どちらかといえばそう思わない ☐ 1 : あまりそう思わない ☐ 0 : 全くそう思わない

設問は以上です。

選択・入力が終わりましたら、右下の「回答」ボタンをクリックしてください。

※スマートフォンからの回答の場合、ボタンはページ最上部に表示されている場合があります。

ご協力ありがとうございました。

回答

本年度 FD 活動を振り返って

1. はじめに

本学における教員の授業改善 P（立案）D（実行）C（評価）A（改善）サイクルは、

- ・「シラバス」作成による計画の立案（P）
- ・各回の授業実施（D）
- ・「受講結果アンケート」による評価（C）
- ・教員の「授業運営の振り返り」による次回改善策の立案（A）

となっている。このレポートでは教員の「授業運営の振り返り」などから全体の授業改善活動を振り返り、来年度以降必要となる F D 活動について考える（全体の F D 活動における A となる）。

2. 実施方法、実施状況について

アンケートの実施方法は、例年同様以下の条件で実行された。

- ・原則全クラスの受講学生を対象とする。
- ・ポータルサイトからの Web 入力で回答する。
- ・教員は 13 回目から 15 回目の授業内でアナウンスしその場で実施させる。

授業ベースでの参加割合は昨年同様 100%であり、実施そのものでも大きな問題は発生していない。教員も学生からの回答を授業改善のための大きな指針としていることが「授業運営の振り返り」からも分かり、システム自体が十分浸透してきていることは確かなようだ。

ただ昨年からの問題としてある学生回答率の低下については改善が進んでいない。3 年間の実施回答率を表 1 に示す。

＜表 1 3 年間の受講結果アンケート学生の回答率＞

	2022 年度	2021 年度	2020 年度
実質回答率	75.3%	75.2%	80.2%

この分析についての詳細は後に述べるが、考えられる原因としてはやはり、オンデマンド形式など授業内で一斉に全員で実施ということが出来ない科目が増えたことが大きいようだ。

3. 教員振り返りの実施方法と実施状況について

教員は、前年後期と今年前期を 1 年のまとまりとして自分の授業運営について振り返りを記入している。方法は昨年同様、担当教員が記入対象科目を 1 科目以上選び、その科目について振り返りを記入するものである。参加率は表 2 の通りであった。

＜表 2 過去 3 年における授業運営の振り返り記述者割合＞

2022 年度		2021 年度		2020 年度	
提出者数	提出率	提出者数	提出率	提出者数	提出率
251	93%	246	94%	238	96%

記述への参加率もほぼ変化がなく、締め切りまでに記述ができなかった教員の顔ぶれも固定されてきている。特に学科ごとの非常勤講師について参加率のバラツキが大きい。ただ「授業運営の振り返り」作業についての意味は浸透してきており、「改善そのものに後ろ向き」「自分の改善ではなく学校や組織、学生に対する不平不満をぶつける」など趣旨に反するような記述は 0 であった。ただ複数科目について振り返りを行った教員は 25 名で、前年の 36 名から減少してしまった。

4. 肯定評価率から見た分析

本学では授業成功の指標として肯定評価率を導入している。それは、

- ・学習目的をよく理解している、の設問で 5（大変そう思う）もしくは 4（そう思う）に印を付けた学生でかつ
- ・この学習目的を達成した実感がある、の設問で 5 か 4 を付けた学生でかつ
- ・今後この学修を深めたいと考えている、の設問で 5 か 4 を付けた学生

の、全体における存在割合である。

昨年度と今年度前期の肯定評価率の変化を表 3 に示す。なお、強肯定とは各設問で 5 を付けた学生、すなわち強く成功を実感している学生の存在率を示している。3 年間の全体肯定評価率、科目種類ごとの肯定評価率は以下の通りである（括弧内が強い肯定評価率）。

＜表 3 3 年間の全体肯定評価率変化＞

	2022 年度	2021 年度	2020 年度
全体	65.7% (24.3%)	62.3% (20.5%)	56.9% (15.1%)
(講義系科目)	61.1% (21.1%)	58.1% (17.8%)	52.4% (13.0%)
(演習系科目)	70.6% (28.2%)	66.7% (23.4%)	62.2% (17.5%)
(実験実習系科目)	73.0% (28.1%)	69.4% (24.7%)	64.1% (18.9%)

この結果からも分かるように 3 年間での肯定評価率は全体、科目別共に大幅な改善を示している。20-21 年度、21-22 年度の改善率（差）は下の通りである（括弧内は同様）。

＜表 4 全体肯定評価率の改善率変化＞

	2022 年度-21 年度	2021-20 年度
全体改善率	+3.40% (+3.80%)	+5.40% (+5.40%)

講義改善率	+3.0% (+3.3%)	+5.7% (4.8%)
演習改善率	+3.9% (+4.8%)	+4.5% (+5.9%)
実験実習改善率	+3.6% (+3.4%)	+5.3% (+5.8%)

昨年もまとめて記述したのだが、結果を素直に受入れることには危険性が伴う。それは学生全体のアンケート参加率が低下しているからである。回答をうっかり忘れる程度の授業満足度であった学生ならば、それらの者が授業に強い肯定感・満足感を示すことは考えにくい。未回答者を肯定的な回答をしなかったと仮定した場合、全体の肯定評価率 49.5%、強い肯定評価率 18.3%になる。半数近くの授業参加学生が肯定的に捉えており、その内3割～4割の学生が強く成功を意識していると言う状況は、実情にもマッチするのではないだろうか。これら結果は、昨年の状況から見ても概ね数%程度年間で改善している。長年にわたるFD活動が少しずつ浸透し、効果を示してきているのではないだろうか。

5. 回答率低下の原因

一番の原因は、遠隔授業（特にオンデマンド形式）の普及にともない、その場で回答させる時間が減少したことだと推測できる。教養科目では対面形式と遠隔オンデマンド形式の2種類の運用方法で授業を展開している科目11科目について回答率の違いを調査した。結果を表5に示す。

＜表5 教養対面・遠隔における学生回答率の違い＞

科目名	対面授業での回答率	遠隔授業での回答率
A	80.30%	36.90%
B	62.70%	40.70%
C	82.90%	58.50%
D	78.90%	63.10%
E	75.90%	39.40%
F	91.20%	80.50%
G	87.30%	55.30%
H	71.60%	40.60%
I	82.40%	55.70%
J	84.80%	35.30%
K	88.40%	47.30%
平均	80.58%	50.30%

対面形式と遠隔形式では回答率の平均で30%以上の開きがある。実際、遠隔形式でも回答率の高かった科目Fの担当者にヒアリングを行ったところ、「最終試験を対面で実施しており、そこで回答をさせていた」とのことであった。やはり、適切な振り返りのためにはその場での指導、回答実施が重要なことは明らかなようだ。

6. その他今年度の活動

その他今年度の活動では、教員に対してディプロマ・ポリシー（DP）への意識調査アンケートを実施した。これは本学で定めた DP 実現のために必要となる 4 つの基礎能力（1 知識・技能、2 思考・判断・想像／創造、3 意欲・態度、4 協働）の中で、自分の科目が担当すべき育成能力（カリキュラムマップで示された◎や○のついた能力）に対して、

- ・自分が持つイメージ
- ・そのイメージを実現するために工夫している授業内容や教育方法、進め方

を各教員に対して調査するものであった。調査により期待できる効果は以下の通りである。

- ①各教員の DP イメージを具体化して集約することにより、自部署の DP の意味をより具体的なものにできる。
- ②各教員が、DP への自分の育成担当能力を意識することにより、部署全体としての教育効果を向上させることができる。
- ③DP を実現するための教育内容が全体として十分であるのか、自科目の担当能力は現状のままでよいのか、と言った見直しに繋げることができる。

その結果をまとめると以下の様になる。

- ・趣旨を理解して真摯に回答したものがほとんどであった。育成能力と教育を結びつける意味でもアンケートは効果的だったと言えるが、むしろアンケートに参加すらしていないような教員も存在しており、それら教員をどのように授業改善へ意識を向けさせていくのかが FD 活動として重要になる。
- ・概ねその部署の DP に即した能力を持つ教員が多かったが、学科専攻によっては DP イメージが徹底しきれていないところもあった。
- ・回答能力の割合は、非常勤講師担当分が含まれていないため適切性の判断は下せないのだが、学科として現状の科目バランスが今のままで良いのか不十分なのかについては、今後も継続した検討が必要になる。
- ・教員のイメージする能力と科目での教育内容から見て、他の要素の方がより適切ではないか（◎○の位置が異なる）、と言う意見や回答が複数見られた。学科内で科目に与えた担当能力について定期的な見直しが必要になる。
- ・知識などは系列で細分化していることも多いが、その他の要素にはそれが無い。アンケートを読むと思考判断想像、協働、意欲態度と言った力に対しても教員間で目的としているものが微妙に異なっていることは多い。例として、思考判断想像の場合、対象の理解に中心をおくもの、その原因推定まで言及するもの、その人の将来への推測を必要としているものなどである。これは、このような能力要素について、さらに細かい要素に分割する必要性を示しているのではないか。カリキュラムマップ等でも能力要素をさらに細かい学修フェーズに分類したものが必要なのかもしれない
- ・意欲態度については、学科を超えてほぼ同じようなニュアンスであり、自主的な学習、自己改善を継続していけるような姿勢を求める声が多かった。

- ・協働についても同様で、他者と業務遂行していくためのコミュニケーションなどを求める声が多かった。

7. 今後の課題

22年FDアンケートについては、各教員の回答を総括し他の教員のイメージを集約したため、自部署のDP能力がより具体化されることが期待できる。具体化できれば授業における指導目的も明確となるため当然教育効果を高めることができる。また、全体カリキュラムから見て足りない教育内容、科目と能力の整合性（◎の位置）なども把握できるだろう。

次のステップとして教育成果の可視化を実施しなければならない。現計画として、DPの基本要素ごとにfGPAの集計を実施するのであるが、この計画の前提として、各科目が基本要素の教育を十分に行っていることが必要になる。つまり今回のアンケートは、教員にDP涵養に対する自科目の責任を促すだけでなく、可視化した値の全体としての正当性を示すための重要な根拠（エビデンス）となり得るのである。

前年の2つの課題、①学生受講結果アンケートの回収率向上、②多様な学修環境下での学習意欲の喚起や継続、思考判断力の育成については引き続きの課題である。①については、各教員に対する事前アナウンスなどで「授業内での振り返り」の徹底を伝えた。遠隔についても同様で、振り返りの重要性、意味を再度伝え、各学生への実施を今後も徹底するようにしていく。

②の学習意欲の向上、考える力の育成については、根本的には積極的に考え、学び続けると言う姿勢そのものの育成に繋がってくるため教育の本質的な問題となってくるのであろう。恐らく教育としての正解や終点は存在しない。一つの重要な回答となりうるものは、今後も教員自らがどうしていけば良いかを積極的に考え続け、改善に努めていくという姿勢を学生に「示す」ことである。所謂学生への「示し」である（背中を見て学ばせる）。FD活動とは、各教員が自主的にそのような「示し」を出し続けられるよう種々の仕掛けを作っていくことに意味があるのであろうし、FD活動を推進する立場の者は、そのための様々な仕掛けを検討し続けていかなければならない。それがFDを推進する者が各教員に対してできる「示し」なのである。

以上

集計結果

- ・名古屋学芸大学 学生受講結果アンケート集計結果表（大学全体）
- ・名古屋学芸大学 学生受講結果アンケート集計結果表（講義）
- ・名古屋学芸大学 学生受講結果アンケート集計結果表（演習）
- ・名古屋学芸大学 学生受講結果アンケート集計結果表（実験・実習）
- ・名古屋学芸大学 学生受講結果アンケート集計結果表（講義・演習）

2022年度 前期 学生受講結果アンケート 集計結果表（大学全体）

名古屋学芸大学

集計区分	大学全体
------	------

回答者数	23,153
------	--------

		回答数と回答率(%)														平均点			肯定回答率				
No		設問文		5.大変 そう思う		4		3		2		1		0.全くそ う思わない		有効 回答	無効 回答	学部	学科	全体	学部	学科	全体
1	1	学習目的の理解		8,564	37.0%	10,312	44.5%	3,739	16.1%	362	1.6%	100	0.4%	76	0.3%	23,153	0	-	-	4.15	-	-	81.5%
	2	授業内容の理解		8,872	38.3%	9,738	42.1%	3,785	16.3%	543	2.3%	134	0.6%	81	0.3%	23,153	0	-	-	4.14	-	-	80.4%
	3	授業時間外学習		8,380	36.2%	8,157	35.2%	4,777	20.6%	1,244	5.4%	421	1.8%	174	0.8%	23,153	0	-	-	3.96	-	-	71.4%
	4	学習目的の達成度		7,238	31.3%	10,086	43.6%	4,917	21.2%	667	2.9%	160	0.7%	85	0.4%	23,153	0	-	-	4.01	-	-	74.8%
	5	学習をさらに深めたいか		10,459	45.2%	7,716	33.3%	4,026	17.4%	645	2.8%	210	0.9%	97	0.4%	23,153	0	-	-	4.18	-	-	78.5%
2	6	参加できる学習環境であったか		9,987	43.1%	8,253	35.6%	3,911	16.9%	675	2.9%	214	0.9%	113	0.5%	23,153	0	-	-	4.16	-	-	78.8%
	7	教材の適切性		10,060	43.5%	8,571	37.0%	3,702	16.0%	541	2.3%	180	0.8%	99	0.4%	23,153	0	-	-	4.19	-	-	80.5%
	8	成績評価物の適切性		9,476	40.9%	8,712	37.6%	4,033	17.4%	604	2.6%	210	0.9%	118	0.5%	23,153	0	-	-	4.14	-	-	78.6%
	9	学習時間の適切性		9,988	43.1%	8,651	37.4%	3,641	15.7%	576	2.5%	180	0.8%	117	0.5%	23,153	0	-	-	4.18	-	-	80.5%
5	15	担当教員独自設問1		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	16	担当教員独自設問2		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	17	担当教員独自設問3		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※5と4と回答した比率

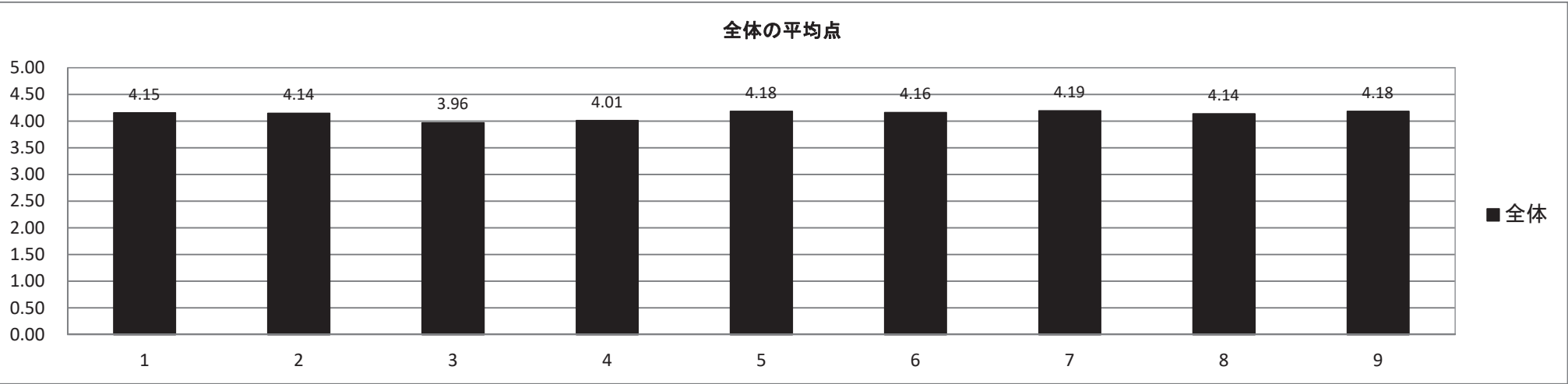
学生肯定評価率		率
学修の成功を実感する学生の割合		65.7%
（その中で特に強く成功を実感する学生の割合）		24.3%

※1

※2

補足説明

クロス項目の※1は、「設問1、4、5」で4または5を回答した学生
クロス項目の※2は、「設問1、4、5」で5を回答した学生
について比率を算出したものです。
明確に良い学習をした学生の比率を把握することができます。



2022年度 前期 学生受講結果アンケート 集計結果表（授業方法別）

名古屋学芸大学

授業方法	講義
------	----

回答者数	12,408
------	--------

No		設問文	回答数と回答率(%)												有効 回答	無効 回答	平均点				※5と4と回答した比率 肯定回答率			
			5.大変 そう思う		4		3		2		1		0.全くそう 思わない				授業 方法	学部	学科	全体	授業 方法	学部	学科	全体
1	1	学習目的の理解	4,078	32.9%	5,677	45.8%	2,304	18.6%	239	1.9%	62	0.5%	48	0.4%	12,408	0	4.07	－	－	－	78.6%	－	－	－
	2	授業内容の理解	4,082	32.9%	5,324	42.9%	2,462	19.8%	388	3.1%	94	0.8%	58	0.5%	12,408	0	4.03	－	－	－	75.8%	－	－	－
	3	授業時間外学習	3,767	30.4%	4,489	36.2%	2,945	23.7%	811	6.5%	296	2.4%	100	0.8%	12,408	0	3.83	－	－	－	66.5%	－	－	－
	4	学習目的の達成度	3,355	27.0%	5,389	43.4%	3,059	24.7%	445	3.6%	105	0.8%	55	0.4%	12,408	0	3.91	－	－	－	70.5%	－	－	－
	5	学習をさらに深めたいか	4,970	40.1%	4,336	34.9%	2,468	19.9%	433	3.5%	139	1.1%	62	0.5%	12,408	0	4.08	－	－	－	75.0%	－	－	－
2	6	参加できる学習環境であったか	4,542	36.6%	4,597	37.0%	2,560	20.6%	483	3.9%	152	1.2%	74	0.6%	12,408	0	4.02	－	－	－	73.7%	－	－	－
	7	教材の適切性	4,864	39.2%	4,710	38.0%	2,309	18.6%	337	2.7%	124	1.0%	64	0.5%	12,408	0	4.10	－	－	－	77.2%	－	－	－
	8	成績評価物の適切性	4,647	37.5%	4,797	38.7%	2,414	19.5%	356	2.9%	124	1.0%	70	0.6%	12,408	0	4.07	－	－	－	76.1%	－	－	－
	9	学習時間の適切性	4,933	39.8%	4,802	38.7%	2,158	17.4%	345	2.8%	103	0.8%	67	0.5%	12,408	0	4.12	－	－	－	78.5%	－	－	－
5	15	担当教員独自設問1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
	16	担当教員独自設問2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
	17	担当教員独自設問3	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	

※5と4と回答した比率

学生肯定評価率		率	学部	学科	全体
学修の成功を実感する学生の割合		61.1%	-	-	-
（その中で特に強く成功を実感する学生の割合）		21.1%	-	-	-

※1

※2

補足説明

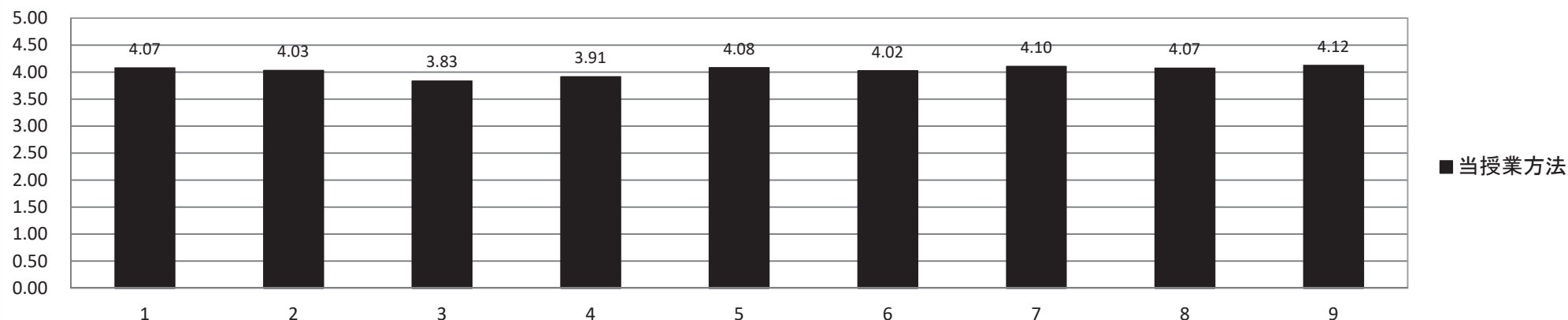
クロス項目の※1は、「設問1、4、5」で4または5を回答した学生

クロス項目の※2は、「設問1、4、5」で5を回答した学生

について比率を算出したものです。

明確に良い学習をした学生の比率を把握することができます。

当授業方法の平均点



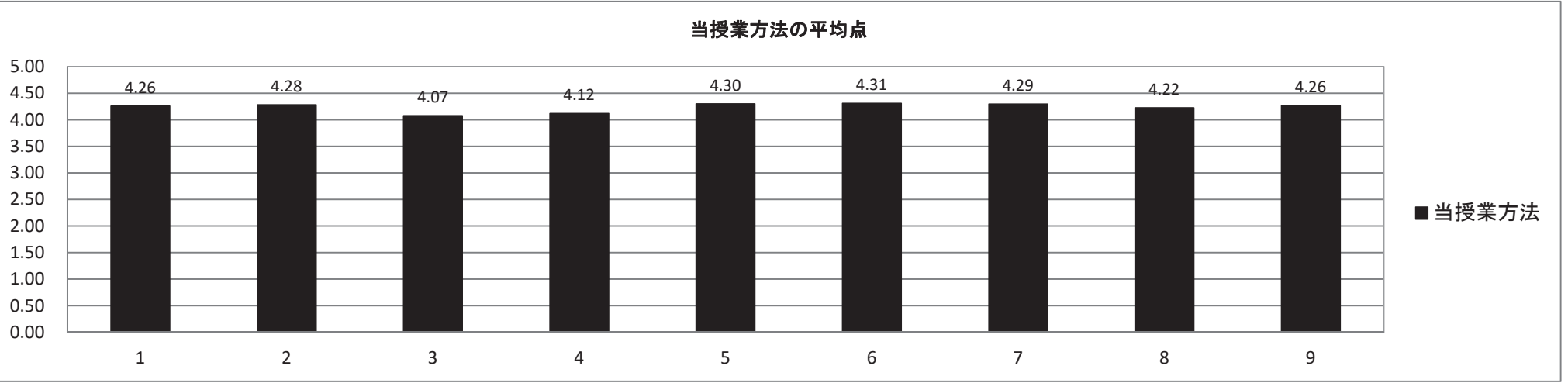
授業方法	演習	回答者数	7,780
------	----	------	-------

		回答数と回答率(%)														平均点				※5と4と回答した比率 肯定回答率			
No	設問文	5.大変 そう思う		4		3		2		1		0.全くそう 思わない		有効 回答	無効 回答	授業 方法	学部	学科	全体	授業 方法	学部	学科	全体
1	1 学習目的の理解	3,342	43.0%	3,277	42.1%	1,030	13.2%	88	1.1%	30	0.4%	13	0.2%	7,780	0	4.26	－	－	－	85.1%	－	－	－
	2 授業内容の理解	3,524	45.3%	3,117	40.1%	976	12.5%	119	1.5%	31	0.4%	13	0.2%	7,780	0	4.28	－	－	－	85.4%	－	－	－
	3 授業時間外学習	3,233	41.6%	2,612	33.6%	1,407	18.1%	372	4.8%	109	1.4%	47	0.6%	7,780	0	4.07	－	－	－	75.1%	－	－	－
	4 学習目的の達成度	2,818	36.2%	3,359	43.2%	1,369	17.6%	175	2.2%	43	0.6%	16	0.2%	7,780	0	4.12	－	－	－	79.4%	－	－	－
	5 学習をさらに深めたいか	3,998	51.4%	2,413	31.0%	1,146	14.7%	145	1.9%	52	0.7%	26	0.3%	7,780	0	4.30	－	－	－	82.4%	－	－	－
2	6 参加できる学習環境であったか	3,941	50.7%	2,613	33.6%	999	12.8%	153	2.0%	48	0.6%	26	0.3%	7,780	0	4.31	－	－	－	84.2%	－	－	－
	7 教材の適切性	3,838	49.3%	2,688	34.6%	1,033	13.3%	152	2.0%	47	0.6%	22	0.3%	7,780	0	4.29	－	－	－	83.9%	－	－	－
	8 成績評価物の適切性	3,596	46.2%	2,749	35.3%	1,138	14.6%	199	2.6%	70	0.9%	28	0.4%	7,780	0	4.22	－	－	－	81.6%	－	－	－
	9 学習時間の適切性	3,743	48.1%	2,690	34.6%	1,086	14.0%	167	2.1%	65	0.8%	29	0.4%	7,780	0	4.26	－	－	－	82.7%	－	－	－
5	15 担当教員独自設問1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	16 担当教員独自設問2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	17 担当教員独自設問3	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－

※5と4と回答した比率

学生肯定評価率		率	学部	学科	全体
学修の成功を実感する学生の割合		70.6%	-	-	-
（その中で特に強く成功を実感する学生の割合）		28.2%	-	-	-

補足説明
クロス項目の※1は、「設問1、4、5」で4または5を回答した学生
クロス項目の※2は、「設問1、4、5」で5を回答した学生
について比率を算出したものです。
明確に良い学習をした学生の比率を把握することができます。



2022年度 前期 学生受講結果アンケート 集計結果表（授業方法別）

名古屋学芸大学

授業方法	実験・実習
------	-------

回答者数	2,744
------	-------

No		設問文	回答数と回答率(%)										有効 回答	無効 回答	平均点				肯定回答率			
			5.大変 そう思う	4	3	2	1	0.全くそ う思わない							授業 方法	学部	学科	全体	授業 方法	学部	学科	全体
1	1	学習目的の理解	1,069 39.0%	1,260 45.9%	363 13.2%	31 1.1%	7 0.3%	14 0.5%					2,744	0	4.21	-	-	-	84.9%	-	-	-
	2	授業内容の理解	1,184 43.1%	1,200 43.7%	312 11.4%	30 1.1%	9 0.3%	9 0.3%					2,744	0	4.27	-	-	-	86.9%	-	-	-
	3	授業時間外学習	1,303 47.5%	974 35.5%	381 13.9%	46 1.7%	15 0.5%	25 0.9%					2,744	0	4.25	-	-	-	83.0%	-	-	-
	4	学習目的の達成度	1,008 36.7%	1,243 45.3%	431 15.7%	39 1.4%	10 0.4%	13 0.5%					2,744	0	4.15	-	-	-	82.0%	-	-	-
	5	学習をさらに深めたいか	1,359 49.5%	903 32.9%	390 14.2%	66 2.4%	18 0.7%	8 0.3%					2,744	0	4.27	-	-	-	82.4%	-	-	-
2	6	参加できる学習環境であったか	1,400 51.0%	965 35.2%	321 11.7%	34 1.2%	12 0.4%	12 0.4%					2,744	0	4.34	-	-	-	86.2%	-	-	-
	7	教材の適切性	1,265 46.1%	1,084 39.5%	327 11.9%	47 1.7%	9 0.3%	12 0.4%					2,744	0	4.28	-	-	-	85.6%	-	-	-
	8	成績評価物の適切性	1,158 42.2%	1,069 39.0%	439 16.0%	45 1.6%	14 0.5%	19 0.7%					2,744	0	4.19	-	-	-	81.2%	-	-	-
	9	学習時間の適切性	1,223 44.6%	1,074 39.1%	362 13.2%	56 2.0%	10 0.4%	19 0.7%					2,744	0	4.23	-	-	-	83.7%	-	-	-
5	15	担当教員独自設問1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	16	担当教員独自設問2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	17	担当教員独自設問3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※5と4と回答した比率

学生肯定評価率		率	学部	学科	全体
学修の成功を実感する学生の割合		73.0%	-	-	-
（その中で特に強く成功を実感する学生の割合）		28.1%	-	-	-

※1

※2

補足説明

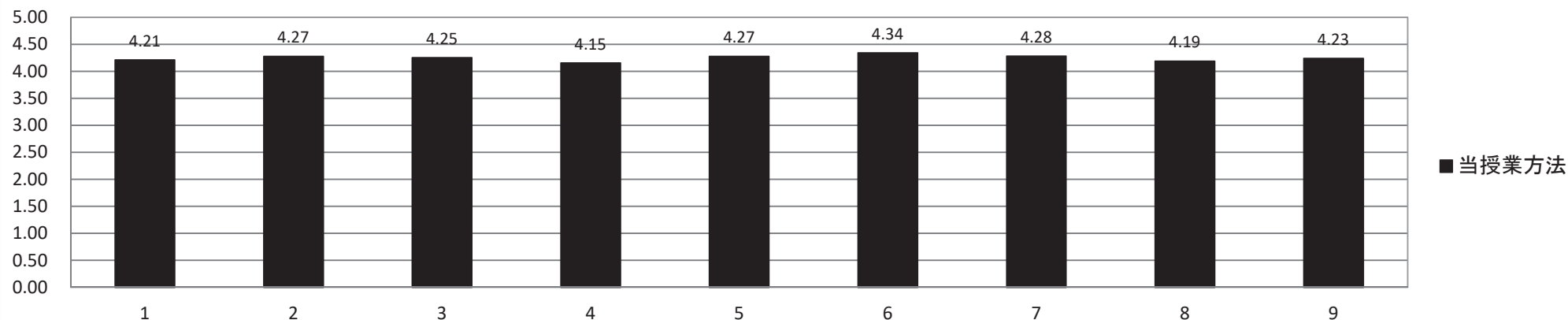
クロス項目の※1は、「設問1、4、5」で4または5を回答した学生

クロス項目の※2は、「設問1、4、5」で5を回答した学生

について比率を算出したものです。

明確に良い学習をした学生の比率を把握することができます。

当授業方法の平均点



2022年度 前期 学生受講結果アンケート 集計結果表（授業方法別）

名古屋学芸大学

授業方法	講義・演習	回答者数	221
------	-------	------	-----

No		設問文	回答数と回答率(%)										有効 回答		無効 回答		平均点				※5と4と回答した比率 肯定回答率			
			5.大変 そう思う		4		3		2		1						0.全くそ う思わない		授業 方法	学部	学科	全体	授業 方法	学部
1	1	学習目的の理解	75	33.9%	98	44.3%	42	19.0%	4	1.8%	1	0.5%	1	0.5%	221	0	4.08	－	－	－	78.3%	－	－	－
	2	授業内容の理解	82	37.1%	97	43.9%	35	15.8%	6	2.7%	0	0.0%	1	0.5%	221	0	4.14	－	－	－	81.0%	－	－	－
	3	授業時間外学習	77	34.8%	82	37.1%	44	19.9%	15	6.8%	1	0.5%	2	0.9%	221	0	3.96	－	－	－	71.9%	－	－	－
	4	学習目的の達成度	57	25.8%	95	43.0%	58	26.2%	8	3.6%	2	0.9%	1	0.5%	221	0	3.88	－	－	－	68.8%	－	－	－
	5	学習をさらに深めたいか	132	59.7%	64	29.0%	22	10.0%	1	0.5%	1	0.5%	1	0.5%	221	0	4.46	－	－	－	88.7%	－	－	－
2	6	参加できる学習環境であったか	104	47.1%	78	35.3%	31	14.0%	5	2.3%	2	0.9%	1	0.5%	221	0	4.24	－	－	－	82.4%	－	－	－
	7	教材の適切性	93	42.1%	89	40.3%	33	14.9%	5	2.3%	0	0.0%	1	0.5%	221	0	4.21	－	－	－	82.4%	－	－	－
	8	成績評価物の適切性	75	33.9%	97	43.9%	42	19.0%	4	1.8%	2	0.9%	1	0.5%	221	0	4.07	－	－	－	77.8%	－	－	－
	9	学習時間の適切性	89	40.3%	85	38.5%	35	15.8%	8	3.6%	2	0.9%	2	0.9%	221	0	4.11	－	－	－	78.7%	－	－	－
5	15	担当教員独自設問1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	16	担当教員独自設問2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	17	担当教員独自設問3	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－

学生肯定評価率		率	学部	学科	全体
学修の成功を実感する学生の割合		65.6%	-	-	-
（その中で特に強く成功を実感する学生の割合）		21.3%	-	-	-

補足説明
クロス項目の※1は、「設問1、4、5」で4または5を回答した学生
クロス項目の※2は、「設問1、4、5」で5を回答した学生
について比率を算出したものです。
明確に良い学習をした学生の比率を把握することができます。

